

描表具

—古典彩色技法を交えた新たな描表具の展開と保存修復倫理—

飯田 穂野香

(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所)

共同研究者：脇屋 助作 (同上)

本研究では、描表具が描かれた背景を考察し、古典技法を取り入れながら描表具を3幅制作した。制作者、文化財保存修復・装潢する立場の者として研究と作品制作を行うことで保存修復倫理を確認し、日本の伝統的な描表具の制作を通して実証したものを床の間のある古民家ギャラリーにおいて発表した。

まず、掛物の変容を見ていくと唐末から五大の時代に、「架」(H29年に貴財団の助成を受けて行った研究で作製した。)に吊り下げる形式の「幘画」が現れ、中国北宋時代には裂や紙で表装する形式の「挂軸」が現れた。つまり平安時代初期に入唐八家が唐から日本に持ち帰った請来美術のうちの掛物は「幘画」である。伝来している密教絵画の曼荼羅図には金箔を押して法具の描画がなされ、上下柱部分には牡丹唐草文が描かれることが多い。裂を廻さずに描いているので描表具と言えるが、この時点では後の作画を主とする描表具の感覚とは異なる性質を持っていると言える。

鎌倉時代になると仏画の荘厳性を高めるために日本独自の表装形式が生まれた。南北朝時代の仏画や、狩野内膳作「平敦盛像」、目視調査を行った薬師寺所蔵「仏涅槃図」は描表具として一文字・風袋部分に印金が施され、上下柱の部分に牡丹文の描写がみられた。これらの描表具が描かれた背景を考察すると、裂の調達、裂肌裏打ち、付け廻しの工程が無い為に期間を短く費用を抑えて、絵師が隅から隅まで願いを込めて制作することができるという利点があるからではないだろうか。いかに裂のように見せるか描画法や印金により工夫がなされていることがわかる。

更に、江戸時代になるとこれまでの要素を持ちながら描表具は大きな変化を遂げる。本紙の画題と廻し部分を関連させて物語を感じるような内容の絵が描かれたり、その2場面を跨ぐようにモチーフを配置したり鑑賞者を楽しませる構図や遊び心を感じさせる内容で描かれる描表具へと幅を広げて変化していく。

また、茶道では薄茶席と濃茶席で使われる掛軸の内容が異なるが、描表具は和やかな

霽囲気の薄茶席で使われることがある。

文化財保存の分野から見ると、描き表具の一種ともいえる近代の絵画切断改装の佐竹本三十六歌仙絵「坂上是則像」「平兼盛像」は室町時代の屏風絵か襖絵から切り取って表装部分としており、文化財保存倫理の観点からは良い例とは言えない。

掛軸の表装は絵師または数寄者が指示する場合と絵の持ち主が指示する場合と装演師の趣向で仕立てる場合の3通りが考えられる。装演師が保存修復倫理を持って仕立てなければ貴重な文化財を破壊することに繋がりがかねない。

掛軸は修復の度、一度解体されて余程の名物裂でない限り新しい表装に仕立て直すことが多いが、本紙と表装部分が一体となった描表具の利点は後の修理の際に改装を防ぐことができる可能性が高いことである。

これらを踏襲した上で日本の伝統的な掛軸である描表具の新たな展開として、これまでに学んだ古典技法と合わせて現代ではどのような可能性があるか描表具の制作を行った。「称名滝図」[図1]は丸表具として掛軸を彷彿させる作品とした。「天女図」[図2]は仏画の要素と風景画の要素を取り入れた作品に仕上げた。「湯俣温泉図」[図3]は輪補表装として一文字に印金を施して茶の間でも使える形式にした。共同研究者の脇屋助作氏の工房（脇屋墨匠堂）で表装を行い伝統的な技法を学んだ。これらの作品を岐阜市内の古民家カフェギャラリーで展示した。

新画の掛軸は温湿度の影響を受けてたわみが出やすい弱点がある。

そこで、適度に室内の加湿を行いながらデータロガーを使って15分おきに展示室内の温度と湿度、同時に目視での表具のたわみの程度を記録して作品のたわみがどのように変化し落ち着くまでにどれくらいの時間がかかるか観察を行った。その結果温度16℃湿度54%では酷く暴れた。温度15℃湿度が72%の日に掛軸の暴れが収まった。この湿度による暴れは掛軸制作中の仮貼りの期間が長ければ長いほど安定する。

鑑賞者の中には描表具を知らない人が多かったが一般的な掛軸との違いを説明すると驚かれ楽しみながら鑑賞された。

今回の研究を終えて展示を行ったことで、認知度の低かった描き表具の面白さを広めることに貢献できた。今後も継続して描表具を制作し発表することで、日本の伝統的な掛軸が再注目されるよう貢献したいと感じた。

仏画の描表具、江戸時代の描表具、近代の絵画切断改装について感性や意味合いを見つめて、現代において新たな描き表具の展開をここに示すことができた。

掛軸の源流である「幞画」がどのようなものであったか構造を復元できていないことが心残りであり次の課題としたい。



[図 1] 「称名滝図」



[図 2] 「飛天図」



[図 3] 「湯又温泉の図」 装飾作業中